

ほのめあん

159 ハチ



薩摩郷句

兼題「茶」

茶を出せばビールが良かちずつね奴

(唱) 肴は握つ 来たがち吐つ

二見愚楽満

うつかいと塩茶をこくつ結婚当初

(唱) 夕べん甘さが ちんがらつなつ

西ノ園ひらり

碓さ茶どま入れた事も無茶道免許

(唱) いざ言う時の ためじゃち吐つ

諸木 小春

メタボにあ桑茶が効つち宣伝回つ

(唱) 毒さならんじ まつ飲んみゃんせ

諸木 美舟

宝くじめ朝ん茶柱て買け走つ

(唱) 金も持たんじ 飛つ出つ行たつ

北村 虎王

大崎短歌会

色づきし小豆の莢を摘みおれば娘より携帯に
「熱中症に注意」と

穂園芳江

雑草園と一人決めて草引かず水引草やほと
とぎす草

溝口 稔

不自由を常と思えば不足なし悪戦苦闘のリハ
ビリ今日も

宮原のり

どのくらい貯筋しておけばいいだろう梅雨の
晴れ間に歩く六千歩

児玉チヅ

朝露をふくみ茂れる夏草の中にはほほずき赤く
実れり

馬場みさ子

大崎俳句会

水馬素早く走る雨の川

桑原正樹

主に吼ゆる牛の思ひや梅雨深し

溝口 稔

病癒え友の絵手紙夏野菜

三浦倫子

浜昼顔寄りそひ咲きて天仰ぐ

新小倉ハツ子

沢音に和してかすかな夕河鹿

内田ちどり

咲きつぎて雨宵灯す白木槿

中崎はなえ

帰省子のじやれつく子犬
抱きしめて

春田昌子

～人権について、考えてみましょう。～

人権啓発
シリーズ
⑦

【犯罪被害者の人権】

犯罪被害者は、突然、生命、身体等に重大な侵害を受けた事件の当事者でありながら、長い間、刑事司法制度や社会から孤立し苦しんできました。しかも、命を奪われたり、けがをするなどの直接的な被害だけではなく、それらに伴う経済的な被害も深刻なうえ、精神的なショックや身体の不調に加え、マスコミの過剰取材や周囲の心ないうわさ話などによるプライバシーの侵害・名誉毀損、平穏な私生活の侵害などの精神的苦痛にもさらされがちなのです。平成17年4月に犯罪被害者等基本法が施行され、同年に被害者やその家族の支援を目的とした、『(社)かごしま犯罪被害者支援センター』が設立されました。

私たちは、誰もが犯罪被害者になる可能性があります。被害者やその家族が心や身体の傷を回復し、立ち直るためには、被害者の人権擁護と、より早期の支援が必要です。